

◇平成25（2012）年11月11日 新名神・交通体系等対策特別委員会

No.18 灰垣委員

私のほうから3点お伺いしたいと思います。

ご説明にもありましたけれども、順調に工事も進んでいるということで、我々も現地へ行かせていただいて、建設途上をいろいろ拝見させてもらってわくわくするのは私だけではないと、そんな感じがしたんですけども、工事が進むといろいろな地域の方からのご意見も上がってきたりして、私のほうにも幾つかご相談があったりしています。

そんな中で3点お伺いしたいと思います。1点目は、高槻—八幡間の35年完成ということですけども、ここに淀川渡河というんですか、側道をつけてくれという話があったりしているんですけども、市としてはどのように捉えていらっしゃるのか。これが1点。

2点目は、梶原の地域の方、JRと阪急京都線が東西に走って孤立したような状況になっているのはご承知のとおりです。今回、工事が進むわけですけども、JRのアンダーボックスも非常に狭い、狭小ですし、小さな里道しかありませんし、いざ緊急時、当然消防活動にも支障を来しますし、通常の生活のための地区間の交通といったものも支障を来している現状、そういう状況です。

この新名神の整備にあわせて南北間の道路整備についてどのように考えているのか、これが2点目。

3点目は、鶴殿のヨシ原の件ですけども、保全に向けて、いろいろ西日本高速道路ともやりとりしているということですけども、関東のほうですかね、新名神高速道路の鶴殿ヨシ原にかかわる区間の建設計画の見直しを求める署名活動が行われているといったことを聞いたんですけども、これらに対して地元の地域の方はどんな考え方をされているか、ご承知であれば教えていただければと思います。

以上です。

No.19 開原新名神推進課長

1点目の新名神と併設する橋の設置要望につきましては、都市計画道路（牧野—高槻線）の橋梁部が事業化されていないことから、新名神高速道路（八幡—高槻間）の工事に合わせ、地域から要望があったものでございます。

本市といたしましても、今後の計画道路に関する動向にも引き続き注視しながら、広域幹線道路ネットワーク等のあり方について、慎重に検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

2点目の梶原地区につきましては、JR、阪急等に分断されている状況は認識しており、

大阪府が施工する高槻東道路の整備に合わせ、大阪府とともに西国街道のバイパスやJRアンダー整備を含む萩之庄梶原線の整備を行っております。また、今後、新名神高速道路の整備におきましても、地域の課題解消につながるように、西日本高速道路株式会社と協議、調整をしておりますので、よろしくお願いいたします。

3点目の、現在、雅楽の伝承に必要なヨシの保全のために、西日本高速道路株式会社におきましては、ヨシ原に極力影響を及ぼさないよう、万全な対策を講じるという基本的な方針のもと、鶴殿ヨシ原環境保全に関する検討会を開催され、学識経験者、ヨシの保全にかかわられている地域の方々のご意見を聞きながら、各種、検討調査を行っております。

地域の方々につきましても、新名神高速道路のルートの変更や事業の反対といった立場ではなく、純粋にヨシの保全のために冷静に対応されているものと伺っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

No.20 灰垣委員

1点目なんですけれども、私ごとで恐縮なんですけど、京都の伏見のほうに二十数年、車で通勤をした経験があるんですけど、当初は枚方大橋と御幸橋、どちらに行っても通勤時は非常に混雑していたんですね。そういった意味では、あの間に1本、橋が欲しいなというのは、これは京都のほうからも、当然、枚方のほうからも、こちら高槻側も、そういう意見はいろんなところから出ていたんですけど、今、どちらかという、枚方大橋も御幸橋もバイパスができたり道路を拡幅したりして、非常にスムーズにいくようになってきたということを考えれば、あの間に橋というのはどうなのかなというふうな考えはしたんですけど、やはり都市間交流とか防災の関係とか、そういったことを考えれば、あの中間に橋があってもおかしくないのかなという地元の皆さんのご意見も尊重しながら、これからまた検討していただきたいなというふうに思いますので、お願いしておきます。

梶原地区の問題ですけれども、ここもやはりいざ防災のとき、緊急のときというのは、非常に危険度も高く、不便な地域ですので、引き続き、これもお願いしたいと思います。

3番目のヨシですが、改めて筆策をウィキペディアですけれども、引っ張ってみたら、先ほど、高木委員もおっしゃっていましたが、五、六年かかるという話もありました。このウィキペディアの中にも淀川右岸の鶴殿で採取されるアシは、かたさ、粘り強さともに最良というふうに書かれています。そういった意味でも、保全に向けてしっかりと取り組んでいただきたいということを、改めてお願いしておきます。

それと、昨年2月のこの特別委員会で私がご意見をさせていただいて、改めてこういった言葉を使わせてもらったんですけど、過去の経緯も踏まえて、今回、インターチェンジができるということは最初で最後のチャンスですよという話をさせていただいて、

市長もそれにご答弁いただいて、私もまさに同じ考えでございまして、最後のチャンスというふうにおっしゃっていました。当然、交通の利便、渋滞の緩和、防災面、こういった部分で高速道路が必要だといった視点になるんでしょうけれども、JR高槻の整備が非常に充実してきて、SUUMOではありますけれども、2回連続、関西の「住んでみて良かった街」ナンバーワンという大きな玄関口になっているというふうに調査の中でありましたけれども、前も申し上げましたと思いますが、車の玄関口というのが改めて今回でき上がるわけですから、西、神戸のほうから、また京都のほうから来られる、今まではまっすぐ通過するしかなかったんですが、高槻市におりてくる道ができるわけですから、前も申し上げました周辺、当然、地元の住民の方たちのご意見を尊重しながら整備をしていくということになるんでしょうけれども、市長の求める関西ナンバーワン、「住んで良かった街」ナンバーワンは1位ですが、住みたい街はまだ7位とか、そういった状況だと思しますので、これをしっかりと活用できるような、まち全体の、高槻に行けばあそこに寄ってみようとか、そういったものが改めてできればなというふうに、箱物をつくろうとかこういうことじゃなくて、もっともっと周知、PRに努めていくべきじゃないかなと。それと周辺のまちづくりも必要になってくると思いますので、改めてその辺もお願いしておきたいということを申し上げて、私の質問を終わります。

以上です。